



母子健康手帳を通じた母子保健サービス向上プロジェクト通信

2020年10月号

◆インパクト評価データ収集終了◆

プロジェクトでは、母子健康手帳を導入し研修や手帳の配布を行うことによる母子健康手帳の効果の検証のために、インパクト評価をベンゲラ州にて実施しました。国家公衆衛生局やベンゲラ州保健局に加え、JICA、国立成育医療研究センター、ティーエーネットワーク／サマウーマ・コンサルティング（JICA 専門家チーム）、現地調査機関と多くの機関がインパクト評価に関わりました。

ベンゲラ州は10市あります。この10市を、母子健康手帳の介入を行う「介入群5市」と、介入を行わず既存の産前健診手帳と子供健康カードを使用し続ける「対照群5市」にランダムに分けました。調査の対象は、州内において2019年3～4月に妊娠したと思われる女性で、「妊婦健診、分娩時のケア、産後健診、小児健診、2回目までの予防接種」のいずれかを目的に初めて保健施設を受診した際に、その女性を調査の対象としました。約1万人の女性が研究に参加しました。一時、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でデータ収集を中断せざるを得ませんでした。2020年9月末に無事に全てのデータ収集を終えることができました。COVID-19の状況が落ち着いたら、対照群でも母子健康手帳の介入を開始していきます。

	2018年			2019年												2020年											
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
母子健康手帳の研修	●→																										
母子健康手帳の配布	●			→												→											
対象者リクルート				●→												●→											
ベースライン調査				●→												●→											
新型コロナウイルスによる中断期間																→											
エンドライン調査																●→											

ベンゲラ州10市の介入群と対照群

介入群	ロビト、バロンボ、ポコイオ、クバル、チョンゴロイ
対照群	ベンゲラ、バイアファルタ、カトゥンベラ、カイクバンボ、ガンダ



◆テクニカルブリーフのポルトガル語版作成中◆

JICAは、母子健康手帳の意義や、これまでJICAや他の国際機関が開発途上国で実施してきた母子健康手帳に関連する事業について、テクニカルブリーフを取りまとめて発行しています。英語、フランス語で作成されており、現在までに31号出ています。世界中の母子健康手帳に関する研究や活動の取り組みが紹介されています。現在プロジェクトではそれらテクニカルブリーフのポルトガル語版を作成中です。来年にはアンゴラの方々の手に届けられるように準備を進めています。英語版は下記のページから閲覧可能です。

https://www.jica.go.jp/activities/issues/health/mch_handbook/technical_brief_en.html

